



講師
中日本ハイウェイ・パトロール名古屋
高山基地 隊長 木戸景明
(2025年6月末時点)

高速道路で多いトラブルとその対処法

高速道路上でよく起こるトラブルとして、エンジントラブルやオーバーヒート、そしてタイヤのパンクやバーストがあります。これらのトラブルは単なる車両故障にとどまらず、重大な事故の原因となる可能性があります。

例えばタイヤのパンクやバースト。高速走行中にタイヤがパンク、バーストすると、急激にハンドルを取られ、ドライバーがコントロールを失う危険性が高まります。タイヤの空気圧の低下や亀裂が原因です。オーバーヒートも深刻な問題です。冷却システムの不調が主な原因となるので、水温計やチェックランプの異常に気づいたら、速やかに安全な場所に停車してください。冷却水が減っている場合は補充が必要ですが、無理をせずディーラーや整備工場に連絡することをおすすめします。高速道路上で車両に異常を感じた場合は、道路緊急ダイヤル「#9910」にご連絡ください。

落下物は落とし主の責任に

現場で驚くような落下物に遭遇することがあります。毛布やシート、車両の一部といった一般的なものから、過去にはプレハブやトイレが落ちていたという事例もありました。これらの落下物は、積み荷の固定が不十分な場合に発生することがほとんどです。

積み荷を落下させること自体が実は法令違反でもあります。荷物を積載する際は、しっかりと固定することを心がけてください。



落下物には、タイヤや毛布などさまざまなものがあります

日常点検を心がけ安全運転を

車を運転する際は、毎回運転前の点検を行うことが、法律で定められたドライバーとして大切な責任のひとつです。日常点検といっても、専門的な知識は必要ありません。目視でできる範囲で十分です。タイヤの亀裂や変形、空気圧の状態、ホイールナットの緩みなどをチェックしてください。もしボンネットを開けられるなら、エンジンルーム内の冷却水やオイルの量も確認できれば理想的です。ガソリンスタンドで定期的に点検してもらうのもよいでしょう。こまめにSAやPAで休憩も取りましょう。積み荷のゆるみもチェックし、コービーでリフレッシュしてください。短時間の仮眠も疲労回復に有効です。

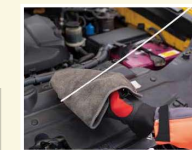
エンジンルームの点検はここを見よう

車を平らな場所に停め、エンジンを冷ました状態で行います。

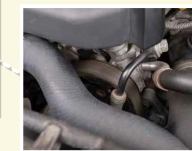


ブレーキオイル
減りがないかを容器のメモリを目安に確認。

エンジンオイルの量
オイルレベルゲージを引き抜き、オイルを拭き取ってから奥まで差し込み、再度引き抜き、エンジンオイルが付着している部分で残量を確認。

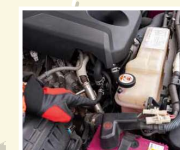


ファンベルト
ゆるみ・亀裂がないか確認。



バッテリー

バッテリー液の量を丸い表示器(インジゲーター)で確認。



冷却水の量

減りがないかを容器のメモリを目安に確認。

タイヤホイールのナット



軽く動かしてゆるみがないか確認。

高速道路のおしごと ～交通管理隊～

交通管理隊は、日勤と夜勤の交代制をとり、24時間365日体制で高速道路をパトロールしています。隊員の2人1組でチームを組み、定期巡回と緊急出動で現場に出て、落下物の排除、故障車への対応、事故処理などの業務にあたります。

高速道路上の業務では「安全」という言葉を安易に言うことはできません。むしろ常に危険と隣り合わせだからこそ、その危険を減らし安全に「近づける」ことが私たちのテーマです。「巡回を終えた隊員が安全に帰ってくること、そしてお客様の安全」が何より大事ですね。

